



# IV

## 人材開発プログラム



## 人材開発プログラム (CB)

### 概要

IGES人材開発プログラム (CB) は、研究に基づく政策決定の実現のため、政策決定者向けに革新的な研修を提供し、政策研究と政策決定を結びつけることを目的としている。

より具体的な目標は次の通りである。

- 1) IGESの研究成果を政策決定者や政策実施者にとってより利用しやすくし、革新的な政策の進展を促す。
- 2) 特にアジア太平洋地域の多数の主要な意思決定者に、包括的な人材開発アプローチの採用・eラーニング<sup>1</sup>の効果的な活用を促し、質の高い学びの機会を提供する。
- 3) 需要に応じ、対面方式/eラーニング併用の研修を提供する。

### eコースの提供

CBは、インターネットとCD-ROMでeコース (コンピュータを活用した研修コース) を提供している。多くはIGESの各プロジェクトの研究活動と連携している。2004年3月31日現在、38のeコースがウェブサイトで公開されている (英語版29、日本語版9)。内容が最新のものでないeコースは「アーカイブ」として記録用のみ公開している。

全eコースのリスト：

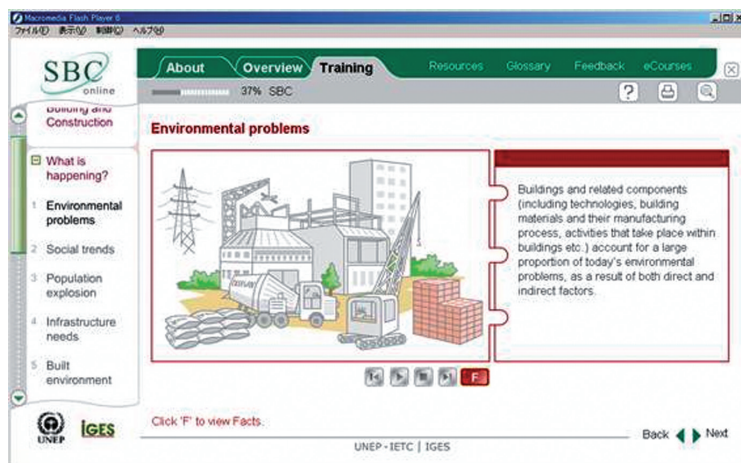
[www.iges.net](http://www.iges.net) (英語), [www.iges-japan.net](http://www.iges-japan.net) (日本語)

**eコースの制作：**IGESのeコースの特徴は、チュートリアル形式、学術的というより実践的、短時間で終了可能、自己学習型ということである。また、IGESおよび協力機関の研究成果を活用し、リーダーシップスキルの向上をめざしている。2003年度には、3つの新しいeコースを制作した。国連気候変動枠組条約 (UNFCCC)<sup>2</sup>や国連環境計画国際環境技術センター (UNEP-IETC)<sup>3</sup>などの協力組織との共同開発も積極的に行っている。

**ユーザー：**2004年3月31日現在、IGES eラーニングには合計3,050のユーザーが登録しており、eコースの受講だけでなく独自のeコース制作、また、オンラインの資料を活用して持続可能な開発の実施に向けて能力開発を行っている。2003年度中に1,100以上の新規ユーザー登録があり、IGESのeラーニングシステムはますます活用されている。2003年10月の調査では、ユーザーの35%が研究・教育機関関係者であり、30%が企業、19%がNGO/NPO、15%が政府関係であった。また、およそ65%がアジアからのユーザーであることも判明した。

### eラーニングシステムおよびアプローチの改善

**何が改善されたのか：**2000年度以来、CBではeラーニングのコース制作や管理のためのIGES独自のシステ



eコースの画面

1 eラーニングには数多くの解釈があるが、IGES人材開発プログラムではeラーニングの意味をより限定し、学習者がインターネットあるいはCD-ROMによって教材を入手するという形の遠隔学習を指す。講師や研修担当者とのやり取りはeメールによって行われる。

2 UNFCCC: [www.unfccc.int](http://www.unfccc.int)

3 UNEP-IETC: [www.unep.or.jp](http://www.unep.or.jp)

ムを開発・改善してきた。2003年度は、eコースの制作および受講のしやすさ、柔軟性を最大限にするため市販のソフトウェアも取入れ、様々なeラーニングの実施方法を検討した。将来開発するeコースが他機関でも幅広く活用されるように、2004年3月、より使い勝手のいいeコース用テンプレートを新たに開発した。この新しいアプローチの採用により、開発効率が向上した上、来年度からは開発されたeコースを協力機関を通して公開できる見通しになった。このことにより、今後は受講者のさらなる増加が見込まれる。また、CD-ROMによるeコース配付も開始した。インターネットの接続が皆無または非常に困難な環境にあるユーザーからは特に好評である。

**ユーザーサポート：**ユーザーに対しては、対面・電子メール・電話等により、技術面およびコンテンツのサポート、研修内容の組立てなどのサポートを行っている。eコース終了者には終了証の発行も開始した。

### 対面式研修の実施

2003年7月にLEAD<sup>4</sup> Japan コホート10を対象と



©IGES

LEAD Japan 研修 (2003年7月 IGES本部にて)

した対面式研修を企画・実施した。この研修は、持続可能な開発のコンセプトを理解し、eラーニングや情報コミュニケーション技術 (ICT) 一般を活用して、参加者各自が今後の活動内容の充実化を図ることを目的としている。LEADの研修は毎年実施しているが、今年も政府、企業、教育機関、NGO/NPOなどさまざまな分野から8名が参加し、研修は成功を収めた。

### 戦略的協力関係の構築

2003年度は、CBと同様に持続可能な開発のためのeラーニングのイニシアティブに取り組む組織 (LEAD、UNU、UNEP-IETC、eWorld等) との戦略的な協力関係を強化する1年となった。こうした協力関係の構築は、人材や資金の有効活用のみならず、オンライン人材育成のクオリティ向上という相乗効果が生まれる。CBは、ネットワークを活用し、情報コミュニケーション技術 (ICT) を駆使した学習を推進するこれらの組織との意見交換や失敗談などの共有だけでなく、対象者拡大をめざしてeコースの共同制作も積極的に行った。

### インターンシップを活用したリーダーシップ研修

2003年度にLEADフェロー (インド) と、IISD<sup>5</sup> (カナダ) の2人の研究インターンを受け入れた。IISDインターンについては、今年初めて受け入れた。この制度を通し、インターンのリーダーシップスキルを強化するだけでなく、IGES研究員との交流の場も提供した。

4 LEAD: Leadership for Environment and Development [www.lead.org](http://www.lead.org)

5 IISD: International Institute for Sustainable Development [www.iisd.org](http://www.iisd.org)

